

暖地における若掘りゴボウの1月出し栽培法

立和田俊明・東郷弘之・福元伸一¹⁾ (鹿児島県農業試験場熊毛支場¹⁾ 国分農業改良普及所)Toshiaki TACHIWADA, Hiroyuki TOUGOU and Shinichi FUKUMOTO :
New Cultivation Techniques of Burdock for Immature Picking in January in Warm Region

鹿児島県本土における若掘りゴボウ栽培は収穫期間が2～4月であり、その時期に収穫出荷を行うためにハウスやトンネルおよび生育調節剤を利用しての休眠打破による栽培で生産の安定を図っている。しかし、熊毛地域においては冬期の温暖な気候(年平均気温18～19℃)を活かすことで、休眠突入前の1月に収穫できる栽培の可能性が1992～1994年の試験からみいだされた。

そこで、休眠突入前までに根部の十分な肥大を図り、1月に収穫可能な若掘りゴボウの栽培法を明らかにする。

1. 材料および方法

試験は熊毛支場内畑圃場(黒ボク土)で実施した。試験圃場は8月下旬に深耕ロータリーで深さ40cmの深耕を行った。県本土ではトンネル被覆により栽培されているため、1995年、1996年の2カ年はマルチに加え、12月下旬～収穫期にトンネル被覆を行う区を設けたが、1997、1998年はマルチのみで試験を実施した。

1) 品種と播種期 品種は‘柳川理想’‘伊助’を用い、播種月日は1995年が9月21日、10月21日、1996年は9月17・24日、10月28日とした。

2) 栽植密度 畦幅120cm 2条植え(条間25cm)において、株間を8, 10, 12cmとして、1996年に検討した。

3) 栽植様式 機械収穫を想定した単条植えについて、1997年は畦幅90cmで株間を8, 5cmにした場合について検討し、1998年は株間を8cmにした中で、畦幅を80, 70cmとして検討した。両年とも対照として、畦幅120cm 株間8cm 2条植えも設けた。

2. 結果および考察

1) 品種は1994年に4品種(柳川理想, 伊助, あずま早太り白肌, 萩)を用い、比較検討したなかで‘柳川理想’‘伊助’(いずれも長根種)が有望と考えられた。‘柳川理想’が1995年9月21日播種では根径・根重・収量が‘伊助’よりもわずかに劣ったが、1996年9月24日播種ではかなり優れた(第1表)。播種期は1995年では9月21日播種の根径 根重 収量が優れ、1996年はより早い9月17日播種を設けたなかでも9月24日播種が優れた(第1表)。

2) 株間は8cmから12cmへと広がるにつれて根径根重が優れる傾向がみられたが、単位面積当たりの収量では株間8cmが多収であった。また、株間8cmは規格の大きいゴボウの収量も10, 12cmと同等で多収であった(第2表)。

3) 単条植え(畦幅90cm)においては、株間8cmの根重が重く、規格の大きいゴボウが多収であったが可販収量は2条植え(畦幅120cm)よりも低収であった。同一株間の場合、畦幅80cmの根重が重かったが、単位面積当たりの収量は畦幅70cmが多収であり、2条植えにわずかに劣る程度であった(第3表)。

4) 収穫可能時期について1997年に検討した結果、1月上旬から収穫可能であり、気温が12月以降、平年よりも高く推移した場合、2月上旬まで収穫期間をのばすこともできると考えられた。

以上の結果から、若掘りゴボウの1月出しの安定生産を図るための栽培方法が以下のとおり明らかになった。

品種：柳川理想, 播種期, 9月下旬, 栽植様式, 畦幅120cm 株間8cm(2条) 2,083株/a, または畦幅70cm 株間8cm(単条) 1,786株/a, 被覆方法とその材質：マルチ(黒色ポリ)のみ, 収穫可能期間, 1月上～下旬。

第1表 播種期・品種別の生育・収量

年	播種期	品種名	根径 (cm)	根重 (g)	可販収量 (kg/a)
1995	9月21日	柳川理想	1.63	77.5	151.9
		伊助	1.67	83.5	160.2
	10月2日	柳川理想	1.40	51.4	93.7
		伊助	1.32	46.2	83.5
	10月11日	柳川理想	1.17	32.0	33.8
		伊助	1.04	23.5	21.4
1996	9月17日	柳川理想	1.74	96.1	133.8
		伊助	1.77	88.2	108.8
	9月24日	柳川理想	1.70	89.6	143.3
		伊助	1.71	82.4	105.6
	10月2日	柳川理想	1.77	86.1	120.0
		伊助	1.59	64.6	98.3
10月8日	柳川理想	1.41	54.0	57.2	
	伊助	1.39	48.0	34.2	

注) a) 可販収量；根長40cm以上で根径が1.2cm以上のゴボウ

b) 被覆方法；マルチ栽培

c) 収穫日 1995年；1996年1月29日、1996年；1997年1月29日

第2表 株間の違いが生育・収量に及ぼす影響(1996年)

株間 (cm)	根径 (cm)	根重 (g)	可販収量 (kg/a)	根径1.9cm 以上(kg/a)
8	1.77	86.1	120.0	51.1
10	1.76	85.8	102.5	50.3
12	1.88	97.0	88.1	54.9

注) a) 品種；柳川理想 b) 被覆方法；マルチ栽培

c) 播種日；10月2日 d) 収穫日；1997年1月29日

第3表 栽植様式の違いが生育・収量に及ぼす影響

年	畦幅 株間	条数	根径 (cm)	根重 (g)	可販収量 (kg/a)	根径1.9cm以上 (kg/a)
1997	120cm×8cm	2	1.6	93.7	183.9	16.8
	90	8	1.7	94.3	114.7	28.9
	〃	5	1.5	71.8	146.3	2.0
1998	120cm×8cm	2	1.7	99.8	173.1	68.3
	80	〃	2.0	135.1	153.3	126.5
	70	〃	1.9	120.8	167.6	109.4

注) a) マルチ栽培 b) 収穫日 1997年；1998年1月21日 1998年；1999年1月27日